

自ら探究する道徳科の学び

～学習課題の設定，振り返り～

田中 千映・湊本 祐也

道徳科の授業において、「探究力」と「省察性」を育むために、子どもが「自己調整」を行うことができる教師の「しかけ」が重要である。そこで、「自分事」として考えようとする学習課題の設定や、自分との関わりのなかで問い直すことができる振り返りの工夫、ICTの活用などについての「しかけ」を考え、4年生で実践を行った。実践を行う中で、子どもの思考に沿った学習課題の設定や、自分との関わりで問い直す視点を入れた振り返りを行うことは、「自己調整」を生むことができた。また、ICT機器を効果的に活用することは、それぞれの道徳的価値の理解を共有する一助となった。

キーワード：自己調整 しかけ 道徳的価値の理解，学習課題の設定，振り返り，ICTの活用

1. 研究の目的

本研究は、道徳科の授業で「探究力」「省察性」を育むために、授業者がどのような「しかけ」を行うことで、子どもが「自己調整」を行う場面を生むことができるかを探ることを目的としている。

1. 1. 学校提案より

学校提案(2021)「未来に生きて働く資質・能力の育成～子どもが自己調整を行う場面を生むしかけ～」を受け、本校道徳部では、育みたい資質・能力である「探究力」と「省察性」及び「道徳科における見方・考え方」を以下のように設定した。

「探究力」

道徳科の見方・考え方を働かせながら、目の前の未知の問題に対して、探究のプロセスをとおして、解決に取り組む資質・能力

「省察性」

道徳科の見方・考え方を働かせながら、自らの学びにおいて学びの方法や道筋を調整・改善したり、学びを意味づけたり、学んだことを自己の生活や行動につなげたりする自己効力感に支えられた資質・能力

「道徳科における見方・考え方」

様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること

学校提案(2021)において、「省察性」が発揮されることで探究のプロセスはより充実したものになっている。また、子どもが「自己調整」を行う場面を生むことのできる「しかけ」を教師が行えば、子どもの省察の姿が豊かになり、子どもの探究の質が高まり、探究力が育つとしている。ここでは、子ども自らが探究の質を高めることを「自己調整」、自己調整ができるようにするための教師による手立てを「しかけ」と定

義している。

以上のことから、道徳科においても、子どもの探究の質を高めるためには、子どもが「自己調整」を行う場面を生むことができる「しかけ」を工夫することが重要であると考えられる。

1. 1. 1. 道徳科における自己調整

道徳科における「自己調整」とは、1. 1. の道徳部における「探究力」「省察性」より、以下のように考える。

「道徳科における自己調整」

道徳的価値について自分の経験や友達の感じ方・考え方と比べながら、再度自分との関わりで問い直し、自己のよりよい生き方について考えを深めようとする

また、道徳科における探究の質を高めるための学びのイメージを下の図に示す(図1)。

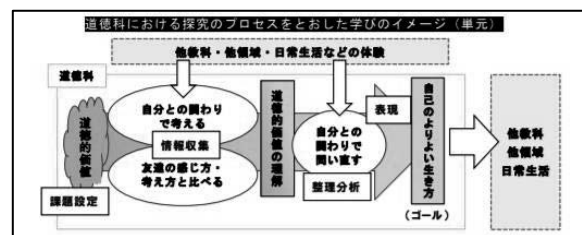


図1 道徳科における探究のプロセスを通した学びのイメージ

1. 2. 学習課題の設定について

田沼(2020)は、「子どもの『問い』にもとづく課題探究型道徳科授業創りのポイント」の一つとして、道徳的諸課題解決のための課題意識を明確にもてるようにすることを挙げ、課題探究型道徳科授業の学習プロセスは、本時の学習の方向づけとして「主題テーマの提示」から始まるとしている。

また、浅見(2020)は、道徳科の学習指導過程には、多くは年間指導計画に基づき、教師が用意した教材に

ついて子どもに考えさせることが行われてきたことを挙げ、「大切にしたいのは、問題解決的な学習をすること以上に、いかに子供が問題意識をもって授業に臨めるかということである。解決したい、みんなで話し合いたい問題に出会うことによって、子供は問題を自分事として受け止め、自分との関りで、主体的に学ぶことができるようになる。」と述べている。

つまり、授業で、子どもたちが「自分事」として考えようとする課題設定ができていれば、子どもに、「自己調整」を行おうとする姿が見られるのではないかと考える。

1. 3. 学習の振り返りについて

子どもたちが自らの学びを見つめ直し、振り返りの機会をもつことは、道徳科においても重要である。

浅見 (2021) は、振り返りについて、教材から離れての自分の体験等を想起しながら、学んだ道徳的価値について自分の生活を振り返ることで、教材のことだけでなく、自分の生活、あるいは、生き方にも生かせるようになると述べている。また、いきなり教材から離れて自分の生活場面で考えようとしても、教材を活用しながらしっかりと道徳的価値の意義について理解できていないと振り返ることは困難であるとし、自分の生活を振り返る前に、道徳的価値の意義を直接問うような発問をするなどして、しっかりと道徳的価値理解のよさや難しさなどが理解できると、子どもたちにとっての充実した振り返りに結び付くことも述べている。

つまり、道徳的価値の理解について考え、さらに、再度自分との関りを問い直す振り返りをさせることで、「自己調整」を行う子どもの姿に繋がるのではないかと考える。

2. 研究仮説

道徳科の授業において、次の2つの「しかけ」を行うことで、「自己調整」を行う子どもの姿が見られなるであろう。

- ・単元の学習課題を授業者と子どもたちで設定する。
- ・振り返りをする前に、道徳的価値の理解を整理し、3つの視点(学んだことや考えたこと・自分を振り返って・これからの生活に生かしたいこと)を定めた振り返りを行う

3. 研究内容・方法

道徳科の授業において、授業実践(小学校4年生)を行い、授業中の子どもの発言や振り返りの記述から、子ども自らが主体的に自己の生き方について考え、自分との関わりで問い直し、学びを意味づけ、学んだことを自己の生活や行動につなげようとしていたかを分析する。

3. 1. 小学校4年生の実践

単元名 「自分の時間にいのちをふきこめば」(全7時間)

単元の目標

生命の有限性を再確認し、どのように有意義な人生をおくるのか、自分なりに思いを馳せ、「いのち」(＝与えられた自分の時間)をどう使うかについて、考えを深めることができる。

「あなたの時間にいのちをふきこめば」(D命の尊さ)を要とし、「A個性の伸長」「A希望と勇気、努力と強い意思」「B感謝」「B親切、思いやり」「C公共の精神」の教材を関連させ、全7時間の道徳科で単元を構成する。

3. 1. 1. 単元をとおしての学習課題の設定

第1時「あなたの時間にいのちをふきこめば」(D命の尊さ)では、単元計画に基づき、単元をとおしての学習課題を子どもと共に設定する(図2)。

「あなたの時間にいのちをふきこめば」は、4月に一度学習している。4月の時点では、自分に使える生命の時間は限られていることに気付き、与えられた命は大切にしていかなければならないという思いをもつことができた。しかし、子どもたちは、実際にどのような生き方をしていくことが「与えられた命を大切にすること」に繋がるのかまで考えを深めるには至っていなかった。これは、子どもたちにとって、自己の生き方の根幹にかかわるものであるため、そう簡単に答えが出せなかったのではないかと考えられる。

このような子どもたちの実態から、「しかけ」の一つとして、この教材から、単元をとおしての学習課題を子どもたちと共に設定することを行う。

道徳科 (全7時間)		
次	時	教材名(内容項目)
1	1	「あなたの時間にいのちをふきこめば」(D生命の尊さ) 単元をとおしての学習課題の設定
2	2	「ネコの手ボランティア」(C公共の精神)
	3	「三つのつづみ」(B親切、思いやり)
	4	「朝が来ると」(B感謝)
	5	「つくれぬいであら」(A個性の伸長)
	6	「かむしやりに」(A希望と勇気、努力と強い意思)
3	7	「自分の時間にいのちをふきこむ」 自分は今どんなことを大切にしたいか? 生きていきたいか? 単元の振り返り

図2 「自分の時間にいのちをふきこめば」単元計画

3. 1. 2. 振り返りの工夫

授業の後半では、学習課題に対する本時の自分の道徳的価値の理解をメンチメーターに記入し、学級全体で共有する。メンチメーターとは、テキストマイニング(大量のテキストを自動分析して有力な情報を取り

出すもの) の中の一つであり、全員の意見を即時に可視化して共有できるWebサービスである。教師が事前に質問を登録しておき、そのページのQRコードを、子どもたちが自分のタブレットPCで読み取り、回答を記入して送信する(図3)。書き込んだ回答が即時に共有でき、同じ言葉があると、文字が大きく表示されるというシステムである(図4)。



図3 メンチメーターに記入・送信する子ども

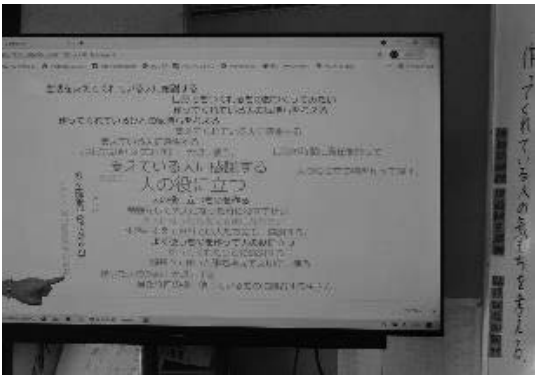


図4 モニターに表示される道徳的価値の理解

これまでの発表形式では、時間の都合上、数名だけしか発表することができなかった。しかし、メンチメーターの活用によって、学習課題に対する全員の道徳的価値の理解を学級全体で共有することができる。また、メンチメーターに書かれた言葉を教室内に掲示することで、子どもたちの学びの足跡になり、道徳の学びに系統性をもたせることもできる。

学習課題に対する本時の道徳的価値の理解を共有した後、3つの視点(学んだことや考えたこと・自分を振り返って・これからの生活に生かしたいこと)で書けるようにしたワークシートに振り返りを書く(図5)。

						自分の時間についての学びや気づきを書きつけよう。
						自分の時間についての学びや気づきを書きつけよう。
						自分の時間についての学びや気づきを書きつけよう。

図5 3つの視点から振り返るワークシート

4. 授業の実際とその考察

單元名「自分の時間にいのちをふきこめば」(全7時間)

4.1. 学習課題の設定

第1時

「あなたの時間にいのちをふきこめば」(D 命の尊さ)

本時のねらい

命を大切にすることが、その時間を延ばすだけでなく、その命を何のために使うかという命の質でもあることに気づき、限りある命を大切に生きていこうとする心情を育てる。

教材に登場する日野原先生がどのような思いで、62歳からの取り組みをしたのかについて話し合った後、日野原先生の言う「時間にいのちをふきこむ」とはどのような意味かを学級全体で考えた。子どもたちからは「人の命のために時間を使う」「時間を無駄にしない。時間を無駄にせず、他の人のために使う」「命を大切に、生きているからできることをする」「1分1秒でも大切にすること」という意見が出された。その後、「自分の時間にいのちをふきこむ生き方」について、「自分ならどんな生き方ができそうか」について考えた。

以下は、そのときの授業記録である。

教師：みんなは何かできそう？

- こうた：困っている子を救ってあげたりする。
- りか：医者になって人のことを助けて、自分の時間を使って。
- 教師：今のりかさんだったら？
- りか：困っている人を助けたり、ふつうにお母さんの手伝いをするだけでも、お母さんのためになる。他の人のためで、自分が得するんじゃないくて、他の人が得する。
- あい：1分1秒無駄な事をしない、必要なことしか、しなければならぬこととする。
- もみじ：1分1秒でも、人が助かることを大切にすること。
- 教師：それじゃあ、自分の時間に命を吹き込むとしたら、
C：えー、難しい。 C：一日かかる。
C：信じていんちやう。

教師：見つけたよって言う子、立ってください

- そうた：自分のためではなく人のために。
- その：自分のために使うなら正しいことをしたい。
- りか：自分のことよりも人のことを大切に、自分が遊んだり楽しかったりするより、人の役立つことをする。
- ともや：医者になるため、勉強して早く医者になって今すぐことをみたくいつながるようにする。

教師：でも、今、命の授業とか、人を助けるとかできる？

- C：でもさ、人を助けるより自分がちゃんとできやな。
- C：自分の大事なことを先にせな、自分のことをせな人を助けるのは難しい。
- C：それも、一理あるな。
- 教師：自分の時間に命を吹き込むってそんな簡単じゃない、なかなか難しいね。これから5時間くらいかけて、道徳の時間に、何ができそうか考えていきましょう。これからの道徳でいっぱい見つけたらいいね。

「自分の時間にいのちをふきこむとしたら」の発問に対し、下線部のように「難しい」「考えるのには1日かかる」「宿題で」とのつぶやきが出ている。また「見つけた子、立ってください」と言われたときは、4人しか答えることができなかった。その答えも、下線部のように、具体的にどのようなことをするという内容ではなかった。このような子どもたちの反応からも、子どもたちの中に、「自分の時間にいのちをふきこむには、どうしたらいいのだろう？」と、自分事となった学習課題（問題）が生まれたと考える。

そして、この後の単元の学習をとおして自分なりの答えを見つけていくために、単元全体を通した全体の学習課題「自分の時間にいのちをふきこむ生き方を見つけよう」を設定することにした。

第4時 「朝がくると」 (B 感謝)

本時のねらい

自分の生活を支えてくれる存在に気付き、そのことが当たり前と思うのではなく、感謝の心をもって生活していこうとする心情を育てる。

授業は、以下のような流れで行った。

1. 学習課題を確認し、普段自分たちの生活を支えてくれている人をイメージする。
2. 「朝がくると」を読んで、話し合う。
 - この詩を読みどんなことを思いましたか。
 - ◎「自分たちの生活を支えてくれている人たちの思いを受け、どんなことを考えますか？」
 - 今日の学習から、「自分の時間にいのちをふきこむ」生き方って、どんな生き方が見つかりましたか？（メンチメーターで共有する）
3. 学習の振り返りを書く。（ワークシート）

以下は、導入場面で学習課題を確認した時の授業記録である。

教師：この間から何をめあてに道徳の時間勉強してきましたか。
 (2/3程度の子どもたちが挙手をする)
れん：自分の時間にいのちをふきこむ生き方。
C：同じです。
教師：ずっと自分の時間にいのちをふきこむ生き方を見つけたよ。今日で、
C：4時間目
教師：今日は自分の生活を支えてくれている人について考え、自分の時間にいのちをふきこむ生き方を自分の時間にいのちをふきこむ生き方をいつけていきたいなと思います。
C：そういうことか。

授業の最初に、子どもたちに、「この間から何をめあてに道徳の時間勉強してきた」と尋ねたときに、多くの子が挙手できたことや、今日の学習課題について下線部のように提示した時には、「そういうことか」とつ

ぶやいていることから、子どもたちの中に、「自分の時間にいのちをふきこむ生き方を見つけよう」という学習課題が浸透していると考えられる。

また、「自分の時間にいのちをふきこむ生き方を見つけよう」(学習課題に対する本時の自分の道徳的価値の理解)をメンチメーターに入力する場面をでも、子どもたちは進んで入力することができた(図6)。このことから、子どもたちは学習課題を自分事にし、解決に向けて主体的に取り組むことができたといえるであろう。

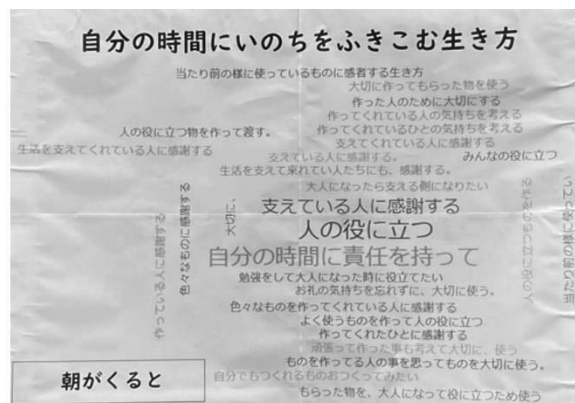


図6 メンチメーターに記入した「自分の時間にいのちをふきこむ生き方」

図7は、ある児童の振り返りである。

この児童は、第1時の振り返りを読むと、人のために時間を使うことは大切と考えるものの、自分はどのような時間ことをしていけばよいかの記述は見られない。この時点では、単元の学習課題「自分の時間にいのちをふきこむ生き方とはどんな生き方か」に対する自分の答えが出ていないということが読み取れる。しかし、第2時・3時・4時の学習になると、「人のために時間を使う」ということの具体的な行動について下線部のように書き表すことができてきた。

また、第5時・6時の「自分のために頑張る生き方」についても、下線部のように、自分をよくする生き方を使って人のために役立てるということまで考えを広げていたことが見て取れる。第7時の単元をとおしての学習課題についての振り返り「自分は今どんなことを大切にしたい生き方をしている？していきたい？」に対しても、下線部のように、短所を長所に変えることやあきらめないといった「自分のために頑張る生き方」を「人のために役立てる」と記述している。授業者は、「自分の頑張りを人のために使う」との考えまでは予想をしていなかったが、児童が単元をとおして自分事として課題意識をもち、「自分の時間にいのちをふきこむ生き方」、その中でも「人の役に立つ生き方」を継続して考え続けることができたからこそ出てきたことであると考える。

◇第1時

時間を他人のために使うことは大切だけど、まず自分が元気でないとダメだとおもいます。他人のために一人が時間を使っても、全員は助けられないから、一人一人がそう思うことが大切だと思います。そうすると、みんながみんなをたすけあえるんじゃないかなと思います。

◇第2時

人の役に立つことをする

人のためにボランティアをすることも、自分の時間いゆちをふきこむに入るのじゃないかなと思います。「自分がやりたいこと」より「自分がやるべきこと」(人の役に立つ事)の方が最優先のじゃないかなと思います。

◇第3時

その場に困っている人がいなくても、その人が助かるように準備をする

テルスウさんのように、その場に困っている人がいなくても、後のことを考えてたすけるためのもの(この話では米・塩・薪・マッチのこと)を用意しておくことも大切じゃないかなと思います。身近にこのようなことを探してやってみたいと思います。

◇第4時

人の役にたつ物をつくる・支えてくれている人に感謝する

自分が人を支えるだけでなく、自分を支えてくれている人に感謝することも自分の時間いゆちをふきこむこと生き方に入るんじゃないかなと気がきました。自分はあまりそういうことを考えていなかった。今度からはそれを考えつつ生活していけたらいいなと思いました。

◇第5時

自分の短所を直して、長所にする。それを使って人の役に立つ

自分をよくし、その自分を使って、人の役にたつことをするという今日と前をつなげることもできそうだなと思いました。ほくはけっこう短所が多くて、直そうと試みてもなかなかできなくて困っているけど、もう一度やってみようと思うけど、なかなかできそうにありません。どうしたらいいのかわかってみようと思います。

◇第6時

あきらめない・がむしやらにに取り組む

あきらめずに、がむしやらに取り組む、目標を達成し、それを利用すれば人の役にたつのではないかなと思います。ほくは、何度かあきらめてしまったことがあります。締めてみようとは思ったりもしますが、気持ちが複雑でなかなか出来ません。あきらめないことは難しいです。

◇第7時

ほくは、短所を長所に変えたり、短所から長所をみつけたたりして、それで、人のために役立つことができるんじゃないかなと思います。また、あきらめずに取り組み、それが自信になり、そして、何か出てきて、それが何かの人の役に立ち、そして、また取り組む、無限のループのように感じます。

※太字はメンチメーターに記入した「自分の時間いゆちをふきこむ生き方」

図7 全時間のある児童の振り返り

4. 2. 3つの視点からの振り返り

単元を通じて、授業を振り返る際には、3つの視点(学んだことや考えたこと・自分を振り返って・これからの生活に生かしたいこと)を中心に書けるようにしたワークシートを用意した。

ここでは、第3時と第4時の振り返りを取り上げ考

察する。

第3時 「三つのつみ」(B 親切, 思いやり)

本時のねらい

次に来る人のために自分がすべきことをするデルスウの行為のすばらしさに気づき、人を思いやり進んで親切にしようとする心情を育てる。

以下は、授業後半での振り返りである。

人のために時間を使う・自分ができそうなことがあればやる

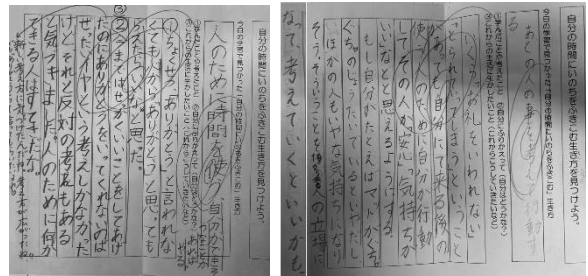
直接「ありがとう」と言われなくても、心から「ありがとう」と思ってもらえたらいいな。今までは、せっかいいいことをしてあげたのに、「ありがとう」を言ってくれないのはぜったいイヤという考えしかなかったけれど、それと反対の考えもあると気づきました。人のために何かできる人はすてきな。

後の人のことを考えて行動する

いくらお礼をいわれなくても、取られて行ってしまうということがあっても、自分でできる、後の使う人のために自分が行動して、その人が「安心」「気持ちがいい」などと思えるようにする。

もし自分が、例えばマットがぐちゃぐちゃの状態だと嫌だし、他の人もいやな気持ちになりそう。そういうことを後から来る人の立場になって考えていくといいかも。

※太字はメンチメーターに記入した「自分の時間いゆちをふきこむ生き方」



第4時 「朝が来ると」(B 感謝)

本時のねらい

3. 1. 1. 参照

以下は、授業後半での振り返りである。

大人になって作ってもらっていた物が役立つように、一生懸命ノートなどを使う

自分が使っているもののほとんどが、人が作ったものを使っていると気がきました。なので、大人になって恩を返していきように頑張って学んでいきたいです。自分は物を大切に使う、物に感謝するができていたのでやりたいです。一生懸命頑張るのはむずかしいかもしれないけど、頑張りたいです。

支えてくれる人にありがとうの気持ちを伝える

お医者様のようにいつも表で生活を支えてくれている人もいれば、水道管を作る私たちが見えない裏で生活を支えてくれる人がいて、表で生活を支えてくれている人には直接言うことができるけど、裏で生活を支えてくれる人には直接感謝の気持ちと言えないので、心の中で感謝の気持ちを伝えていきたいです。

※太字はメンチメーターに記入した「自分の時間いゆちをふきこむ生き方」

第3時・第4時の下線部は学んだ道徳的価値について自分の生活を振り返ったこと、下線部はこれからの自分の生き方や生活に生かしていきたいことの記述と捉えることができる。教材から道徳的価値の理解について考えたことを、再度自分との関わりで問い直すワークシートを用いて振り返りを行ったことで、学びを意味づけ、学んだことを自己の生活や行動につなげようとする思考が子どもたちの中で、「自己調整」を行う子どもの姿が見られたと考える。

また、ワークシートで振り返る前に、メンチメーターでの本時の道徳的価値の理解について全体で共有を行ったことも、学びを意味づけるということにおいて、効果があったと考える。

5. 成果と課題

本研究をとおして、以下のような成果が考えられる。

まず、本単元の実践における課題設定の場面で、子ども達の意識の流れに沿った学習課題を子どもと共に設定する「しかけ」を行ったことで、子ども達が単元をとおして主体的に考え続けようとする姿が多く見られた。「自分の時間にいのちをふきこむ生き方を見つけよう」という課題に対して、第1時では、ほとんどの児童が自分なりの考えをもつことができなかった。しかし、第2時から今までの道徳の学習や自分の経験を生かし、積極的に学習課題と結び付けながら考え、発表したりワークシートやメンチメーターに書き込んだりすることができた。これは、子どもたちが、1時間1時間の授業をとおして、「自己調整」を行うことができたと考えられる。また、本実践では複数の教材を組み合わせて単元作りを行ったが、中心となる教材（「あなたの時間にいのちをふきこめば」）が単元を支える大きな柱となり、系統性のある子どもの学びが成立したと考えられる。

次に、2つ目の「しかけ」として実践した「3つの視点（学んだことや考えたこと・自分を振り返って・これからの生活に生かしたいこと）を定めた振り返り」では、自分なりの道徳的価値の理解・自分の生活の振り返り・これからの生活や行動につなげたいことなどをワークシートに書くことができた。中でも、「自分を振り返って・これからの生活に生かしたいこと」と、自分との関わりで問い直す振り返りの視点を入れたことで、道徳的価値の理解から、再度自分との関わりで問い直す振り返りの流れをつくることができ、学んだことを自己の生活や行動に繋げようとする「自己調整」を行う子どもの姿に近づくことができたと考えられる。

また、本実践ではタブレット PC を授業の中で活用し、子どもの意見をみんなで共有する場面を作ったことで、それぞれの道徳的価値の理解を共有する一助となった。授業で活用したメンチメーターは、子ども達の意見が瞬時にモニターに反映することができる。その可視化され

た道徳的価値の理解を学びの足跡として、その後の授業や日々の生活に活用することができた。

次に、本研究の課題点について考察を行う。

本実践では、学習課題の設定と振り返りの工夫について成果を述べてきたが、道徳的価値の理解が子どもたちの中で深められていないと、自己との関わりで見つめ直す振り返りにつなげることはできない。そうするためには、考えを深めるための発問の精選や、子どもたちの考えを揺さぶる補助発問、それぞれの考えを可視化し、話し合いを充実させる工夫をすることなどが考えられる。道徳的価値の理解が子どもたちの中で深まるためには、これらのことを考慮して、さらに充実した道徳の学びの実現に向けて研究を行っていく必要がある。

また、本実践で、評価については触れてこなかったが、子どもの学びを充実させるためには、道徳科における評価の在り方についても考えていく必要がある。子どもたちが書いたワークシートに対して、個々に教師が言葉を返す評価は継続して行ってきたが、さらに多様な評価の在り方を検討していきたい。例えば、子ども同士の相互評価の場面を授業内に取り入れたり、子どもが系統性をもって評価を蓄積していくようなポートフォリオ評価等を活用したりすることで、さらに子ども自らが成長を実感し、子どもたちが主体的に学びに向かう姿が見られるだろう。

道徳科における ICT 機器の活用についても、その有効な方法を検討していく必要がある。ICT 機器を活用することが目的とならないように配慮し、使用すべき場面を厳選しながら、従来の学びと融合させていくことが求められる。

子どもたちが主体的に自己の生き方について考え、「自分事」として考えようとする学習課題の設定や、自分との関わりの中で問い直すことができる振り返りの工夫などの「しかけ」についてはまだまだ研究の余地がある。今後更に道徳科の研究を進め、子どもが「自己調整」を行いながら「探究力」「省察性」を育むことができる道徳の授業を探っていきたい。

参考文献

- ・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき株式会社
- ・田沼茂紀(2020)『問いで紡ぐ小学校道徳科授業づくり 学びのストーリーで「自分ごと」の道徳学びを生み出す』東洋館出版社
- ・浅見哲也(2020)『こだわりの授業レシピ～あなたはどんな授業がお好みですか?～』東洋館出版社
- ・浅見哲也(2020)『道徳科 授業構想グランドデザイン』明治図書
- ・安井政樹(2021)『ICT×導入全員参加で議論するための土台をつくる道徳教育』明治図書